

令和4年度第2回 帯広圏デジタル化推進協議会 議事概要

日時：令和5年2月16日（木）

10時25分～11時40分

場所：帯広市役所 4階会議室

1 議題1：第1回会議（書面開催）の結果について（報告）

- ・資料1のとおり、事務局（帯広市 ICT 推進課）より報告し、質疑は特になかった。

2 議題2：帯広圏におけるデジタル化推進に向けた意見交換

（1）実現したい事項や重点的取り組み分野について

座長の進行により、各委員より発言があった。要旨は以下のとおり。

委員

- ・取組を進めるうえで規模感は重要な要素。帯広圏はその推進に適した地域と考える。
- ・デジタル技術を導入する際には、市民がそのメリットを感じられるようにすることが重要。特に、若い世代や子育て世代をターゲットにすることで、地域の活性化や人口減少の防止につなげていきたい。
- ・食や農業分野における DX の推進は十勝全体のテーマ。
- ・公共交通分野において MaaS などの新たな仕組みを進める必要がある。その際も帯広圏の規模感で取り組みを考えていくことが重要。

委員

- ・町で農業 DX 構想を策定しており、生産・事務・農村生活の3分野を柱としている。同じような動きができればいいのではないかと考える。
- ・防災・観光・医療の分野については、観光分野が先行しやすいと考える。取り組める事項はすぐ取り組むべき。
- ・DXの可能性を探る意識やデジタル化に取り組む発想を職員全員が持つことが必要。

委員

- ・DXは市民の便利さを高めるための道具であり手段。DXを推進することのメリットを分かりやすく発信したり、効率化で得られた時間を市民サービスの向上に活かしていくことが必要。
- ・医療・介護の分野は、帯広圏における優先課題と考える。
- ・道路工事、災害、クマの出没情報など、住民に身近な情報を圏域内で共有できるようになるとよい。

委員

- ・帯広圏の住みやすさ向上を目指すことで圏域内はもとより、十勝全体への波及も意識して取り組みを進めていくべき。
- ・MaaS等は小規模な取り組みも大事だが、帯広圏のスケールでなどで課題解決に取り組むことで、外部から訪れた人の利便性向上やゼロカーボンにもつながられる。
- ・データ流通や連携の円滑化は、特に子育て世代へのアプローチに効果がある。
- ・広い話だけをするのではなく、しっかりとしたベースを作りつつ、取り組みやすいところから実行に移すことが必要。

座長

- ・何か施策に取り組む際、一般的には各自治体は国の補助金に沿って制度を作るが、デジタル田園都市についてはそのような考え方で取り組むと本来の目的や方向性が見失われる恐れがある。
- ・人口減少の時代に、現在と同等の規模でサービスを提供するのは難しい。国全体としての方向性が不透明ななか、デジタル化の流れに乗るだけで、あるべき地域づくりが進むかというところではない。帯広圏として戦略的にこのような取り組みを進め、提言していくことは重要。
- ・医療・介護等の「課題」と教育等の「投資」のバランスの取り方が一つのポイントである。

(2) 目指す姿について

(1)に続き、座長の進行により、各委員より発言があった。要旨は以下のとおり。

委員

- ・都市部から移住をしてもストレスなく生活できる環境を目指していきたい。
- ・子育て世代への取り組みは待ったなし。画期的なアイデアによりニーズに応えていきたい。
- ・圏域として一体感のある情報発信も進めていきたい。
- ・構想としては、地域の変化や成長性を感じさせるフレーズが必要。

委員

- ・マイナンバーカードについて、取得することのメリットを実感してもらえるような取り組みが展開できたらよい。
- ・デジタル化は選択肢の一つという位置付けも必要。強制はできない。
- ・圏域が一体となり、次世代に生きる仕組みづくりに取り組めるとよい。

委員

- ・圏域の人が「共通の情報」を得られることにより「繋がる」社会の実現を進められると良い。

- ・住んでみたいと感じるような、住民が幸せを実感できる魅力ある地域づくりにつながる取組が展開できると良い。

委員

- ・帯広圏から十勝全体に波及していけるような取組みが出来ればよい。
- ・帯広圏1市3町は民間の調査においても高い評価を得ているエリア。この基盤を活かし、次のステップに向けて準備を進めることが重要。
- ・暮らしやすい地域のポテンシャルを持っている。奇想天外なものも含め、多様なアイデアを検討し、デジタルを活かして可能性を広げられるとよい。

座長

- ・この地域のポテンシャルは高い。プライドを持って活動していける地域だと考える。圏域の輝きを維持しながら、さらにデジタルの力でジャンプアップするためのビジョンや方向性をこの協議会を通じて共有できるとよい。
- ・都市圏としての力をどのように発揮するかがポイント。すぐ取り組めることは着手し、成果は発信していけたらよい。
- ・海外では、農業について「生産性」だけではなくバリューチェーンやサプライチェーンも含め、全体で高付加価値化を目指す地域も出てきている。こうした要素を帯広圏で取り入れることも考えの一つである。

(3) 骨子のイメージについて

- ・資料5にもとづき、事務局より説明し、質疑は特になかった。提示のイメージをもとに、本日の意見を取り込み、数ページ程度に取りまとめた骨子案の作成を進める。

3 議題3：その他

事務局

- ・次回会議で骨子案を示し協議し、年度内に骨子決定を目指す。
- ・骨子決定後、具体的な議論を行う場として、有識者会議を設置し、4回程度会議を開催し議論を進める予定。有識者会議の構成は現時点では資料6のとおりイメージしているが、別途諮る。